

京都大学土木会 学生・若手会員研修助成基金 成果報告書

京都大学工学部地球工学科国際コース 3回生 清家小絢

2025年8月12日から2025年8月27日までインドネシアに滞在し、京都大学カリキュラム「International Internship」の一環として、東亜建設工業株式会社が携わるプロジェクト「パティンバン港開発事業フェーズ2 パッケージ5：カーターミナル建設工事」に参加した。この事業は日本の国際協力機構（JICA）が行う政府開発援助（ODA）による有償資金協力で本邦技術活用条件（STEP）が適用されており、ジャカルタ首都圏東部パティンバンに新港を建設するものである。

研修目的はゼネコンとしての業務内容を理解し、大学での学びが実際の現場でどのように役立っているのか理解することに加えて、国際的な素養を養うことであった。これらを達成するため、初めに安全教育の実施と現場陸上箇所、海上箇所の見学を行なった。現場の全体図を掴み基本的な作業行程を理解することができた。またカーバースチーム、ストームウォータードリネージチーム、サンドリクラメイションチーム、測量チーム、管理棟建設チームに同行し、それぞれのチームの役割や現場についてのより詳しい知識を学んだ。加えてカンティティサーベイチーム、総務課についても業務内容を理解し、このプロジェクトの詳しい契約内容や、東亜建設工業の業績や個性について知ることができた。研修中にはデイリーミーティングやセイフティパトロール、コンサルタントとのミーティングにも同行する機会があった。これらを通してチーム間での情報共有や現状確認、現場の安全の確保、コンサルタントと密に連帯して業務を進めていく様子などについて理解を深めることができた。さらに空いた時間には設計課題を行い、実際の現場の設計と大学で学んだ理論的な背景をつなげることができた。最後に、このインターンシップの成果について社内で発表を行なった。自身の学びについて改めて振り返る良い機会となった。

この研修は土木の知識と英語の能力を活かし海外で仕事をするという自身の将来について考えるきっかけとなり、また大学の勉強や英語の習得への意欲がより一層高まった。また国外に住み、さまざまな国の人と良い関係を築きながら正確な仕事を行うには、高い適応力と精神力、コミュニケーション能力、リーダーシップなどが求められるということも改めて実感し、より成長したいというモチベーションが生まれる良い機会となった。

この研修は私にとって学びの多い、素晴らしい経験となりました。ご助成いただいた京都大学土木会、並びに会員の皆様に心より感謝いたします。

